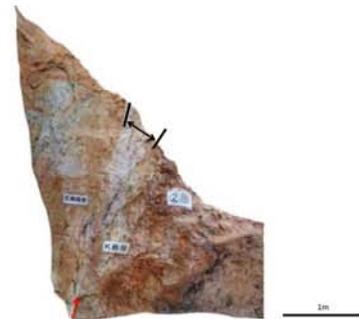


3. K断層
性状一覽表(3/12)

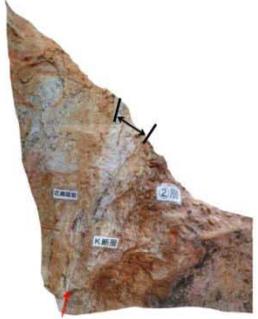
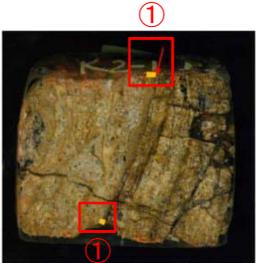
断層名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・断層角線の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	2-1ピット	-	-	N1W	69W	40.0	0.4	有 *1	非平滑 *1	78R	逆	-	
	H24-B6-1 (傾斜45°)	3.00	4.00	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	
	H27-F-1 (傾斜50°)	20.29	20.88	N11E	76W	51.8	0.2	有	非平滑	70L	-	-	

凡 例			
	:最新活動面		:破砕幅
	:断層ガウジ		:粘土の狭在物が認められる箇所
	*1:露頭		*2:試掘坑

【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

3. K断層
性状一覽表(3/12)

断層名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・断層角礫の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	2-1ピット	-	-	N1W	69W	40.0	0.4	有 *1	非平滑 *1	78R	逆	-	  <p>※底盤から採取</p>
	H24-B6-1 (傾斜45°)	3.00	4.00	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	
	H27-F-1 (傾斜50°)	20.29	20.88	N11E	76W	51.8	0.2	有	非平滑	70L	-	-	20

163(分類A)①
断層ガウジの範囲について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

凡 例			
	:最新活動面		:破砕幅
	:断層ガウジ		:粘土の狭在物が認められる箇所
	*1:露頭		*2:試掘坑

【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

3. K断層
性状一覽表(4/12)

断層名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・断層角礫の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	H24-B-1 (傾斜45°)	7.50	10.93	N12W	88W	242.5	1.0	有	非平滑	59L	逆	左	7 8 9 10 11
	H24-B-2 (傾斜70°)	12.42	13.27	N4E	73W	52.3	0.3	有	非平滑	20L	-	左	12 13
	H24-H-2 (傾斜70°)	5.02	5.38	N29W	66W	12.3	2.5	有	非平滑	75R	-	-	5 6
	H24-B-7 (傾斜90°)	0.62		N28W	67W	-	-	-	-	30R	-	-	0 1
	H24-B-3 (傾斜45°)	7.37	7.70	NS	84W	19.4	0.3	無	-	50L	逆	左	7 8

凡 例			
	: 最新活動面		: 破砕幅
	: 断層ガウジ		: 粘土の狭在物が認められる箇所
*	1: 露頭		
*	2: 試掘坑		

【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

3. K断層
性状一覽表(4/12)

断層名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ断層角線の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	H24-B-1 (傾斜45°)	7.50	10.93	N12W	89W	242.5	1.0	有	非平滑	55L	逆	左	7 8 9 10 11
	H24-B-2 (傾斜70°)	12.42	13.27	N4E	73W	52.3	0.3	有	非平滑	20L	-	左	12 13
	H24-H-2 (傾斜70°)	5.02	5.38	N29W	66W	12.3	2.5	有	非平滑	75R	-	-	5 6
	H24-B-7 (傾斜90°)	0.62		N28W	62W	-	-	-	-	30R	-	-	0 1
	H24-B-3 (傾斜45°)	7.37	7.70	NS	84W	19.4	0.3	無	-	50L	逆	左	7 8

164(分類A)①
断層ガウジの範囲について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。
165(分類A)②
破砕幅の範囲について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

3. K断層
性状一覽表(10/12)

断層名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ-断層角縁の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	H24-H-13 (傾斜60°)	8.89	9.80	N10W	72W	52.2	2.5	有	非平滑	50R	逆	右	
	H27-G-1 (鉛直)	6.48	7.24	(未計測)		23.5	1.5	有	平滑	-	-	-	
	H27-G-2 (鉛直)	5.40	6.40	(未計測)		34.2	1.0	有	非平滑	-	-	-	
	H24-H-7-1 (鉛直)	3.73		N5E	73W	-	-	-	-	90	-	-	
	H27-G-3 (鉛直)	5.11	5.75	(未計測)		45.3	2.0	有	非平滑	-	-	-	

凡 例			
	:最新活動面		:破砕幅
	:断層ガウジ		:粘土の狭在物が認められる箇所
	*1:露頭		*2:試験坑

【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

3. K断層
性状一覧表(10/12)

断層名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・断層角礫の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	H24-H-13 (傾斜60°)	8.89	9.80	N10W	72W	52.2	2.5	有	非平滑	50R	逆	右	
	H27-G-1 (鉛直)	6.48	7.24	(未計測)		23.5	1.5	有	平滑	-	-	-	
	H27-G-2 (鉛直)	5.40	6.40	(未計測)		34.2	1.0	有	非平滑	-	-	-	
	H24-H-7-1 (鉛直)	3.73		N5E	73W	-	-	-	-	90	-	-	
	H27-G-3 (鉛直)	5.11	5.75	(未計測)		45.3	2.0	有	非平滑	-	-	-	

166(分類A)①
断層ガウジの範囲について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

凡例			
	:最新活動面		:破砕幅
	:断層ガウジ		:粘土の狭在物が認められる箇所
	*1:露頭		*2:試掘坑

【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部の
合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

3. K断層
性状一覽表(11/12)

断層名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ-断層角線の幅 (cm)	最新活動面		変位方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	H27-G-4 (鉛直)	4.92	5.15	(未計測)		14.2	4.8	有	平滑	-	-	-	
	H24-H-9-1 (傾斜60°)	10.43	11.00	NS	86W	24.1	1.0	有	非平滑	60L	逆	左	
	H27-G-5 (鉛直)	4.30	4.80	(未計測)		28.7	17.2	有	平滑	-	-	-	
	H27-G-6 (鉛直)	4.09	4.25	(未計測)		11.3	5.4	有	非平滑	-	-	-	
	H24-H-14 (鉛直)	4.93	7.81	N3W	55W	165.2	1.0	有	非平滑	50R	逆	右	

凡 例			
	:最新活動面		:破砕幅
	:断層ガウジ		:粘土の狭在物が認められる箇所
*1:	露頭		
*2:	試験坑		

【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

3. K断層
性状一覧表(11/12)

断層名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層カウンタ断層角縁の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
K	H27-G-4 (鉛直)	4.92	5.15	(未計測)		14.2	4.8	有	平滑	-	-	-	4 5 6
	H24-H-9-1 (傾斜60°)	10.43	11.00	NS	86W	24.1	1.0	有	非平滑	60L	逆	左	10 11
	H27-G-5 (鉛直)	4.30	4.80	(未計測)		28.7	17.2	有	平滑	-	-	-	4 5
	H27-G-6 (鉛直)	4.09	4.25	(未計測)		11.3	5.4	有	非平滑	-	-	-	4 5
	H24-H-14 (鉛直)	4.93	7.81	N3W	55W	165.2	1.0	有	非平滑	50R	逆	右	4 5 6 7 8

167(分類A)①
破砕幅の範囲について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

凡例			
	:最新活動面		:破砕幅
	:断層ガウジ		:粘土の狭在物が認められる箇所
	*1:露頭		*2:試験坑

【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

4. D-6破碎帯
性状一覽表(2/6)

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層方ウジ・断層角縁の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真	
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平		
D-6	H19-No.12 (傾斜45°)	224.67	225.08	-	-	32.0	1.0	有	平滑	-	-	-		
	H19-No.4 (傾斜45°)	171.69	174.88	N9E	78W	209.0	17.3	有	平滑	79L	正	-		
	1号機試験坑	-	-	N29E	80W	300.0	20.0	-	-	-	-	-	-	<p>D-6 破碎帯 (粘土幅 20cm, 軟弱な花崗岩からなる) N36° E80° W</p>
	H27-D-6 西側	1号炉原子炉建屋南側斜面剥ぎ取り部	-	-	N1E	85W	70.0	4.3	有*1	非平滑*1	42L	正	右	

凡例			
	:最新活動面		:破碎幅
	:断層ガウジ		:粘土の狭在物が認められる箇所
	*1:露頭		*2:試験坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

4. D-6破砕帯
性状一覽表(2/6)

破砕帯名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ断層角線の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
D-6	H19-No.12 (傾斜45°)	224.67	225.08	-	-	32.0	1.0	有	平滑	-	-	-	
	H19-No.4 (傾斜45°)	171.69	174.88	N9E	78W	209.0	17.3	有	平滑	78L	正	-	
	1号機試験坑	-	-	N29E	80W	300.0	20.0	-	-	-	-	-	-
H27-D-6	1号炉原子炉建屋南側斜面剥ぎ取り部	-	-	N1E	85W	70.0	4.3	有*1	非平滑*1	42L	正	右	

168(分類A)①
断層ガウジの範囲について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

凡例			
	:最新活動面		:破砕幅
	:断層ガウジ		:粘土の狭在物が認められる箇所
	*1:露頭		*2:試験坑

【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

6. D-5破砕帯
性状一覽表(1/5)

- ・ 最新活動面のせん断構造・変形構造の有無については、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
- ・ 最新活動面の平滑さについては、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
- ・ 最新活動面の変位センスについては、薄片の観察による認定を基本としている。
- ・ なお、上記以外の観察方法で認定したものについては、表中に注書きしている。

破砕帯名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・断層角縁の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明確なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
D-5	H24-B8-21 (傾斜45°)	92.86	93.53	N5W	82E	17.0	0.8	有	非平滑	-	正	右	92 93 94
	H24-B11-1 (傾斜45°)	88.93	88.97	N4E	81W	3.8	0.3	有	非平滑	60L	正	右	88 89
	H19-No.12 (傾斜45°)	172.20	172.45	-	-	22.0	0.2	有	非平滑	-	-	-	172
	H19-No.4 (傾斜45°)	107.54	109.94	N16E	87W	178.4	2.5	有	非平滑	-	正	右	107 108 109 110
	1号機 試験坑	-	-	N5E ~ N13E	72W ~ 78W	500.0	不明	-	-	-	-	-	-

D-5破砕帯 (軟弱な花崗岩幅) N5° E72° W~N13° E78° W
 D-5破砕帯 (白色粘土, 軟弱な花崗岩及び亀裂の多い花崗岩) N5° E72° W~N13° E78° W
 N25° E71° W
 N14° E81° W
 弱い破砕部 N11° E75° W

凡例

- アブライト
- 破砕部
- 節理

凡例

- ← → : 最新活動面
- ← → : 破砕幅
- : 断層ガウジ
- : 粘土の狭在物が認められる箇所
- *1: 露頭
- *2: 試験坑

【破砕幅】
 粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
 平滑：最新活動面が直線的なもの
 非平滑：最新活動面が湾曲するもの

6. D-5破碎帯

性状一覽表(1/5)

- 最新活動面のせん断構造・変形構造の有無については、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
- 最新活動面の平滑さについては、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
- 最新活動面の変位センスについては、薄片の観察による認定を基本としている。
- なお、上記以外の観察方法で認定したものについては、表中に注書きしている。

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層カウシ断層角隲の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
D-5	H24-B8-21 (傾斜45°)	92.86	93.53	N5W	82E	17.0	0.8	有	非平滑	-	正	右	92 93 94
	H24-B11-1 (傾斜45°)	88.93	88.97	N4E	81W	3.8	0.3	有	非平滑	60L	正	右	88 89
	H19-No.12 (傾斜45°)	172.20	172.45	-	-	16.0	0.2	有	非平滑	-	-	-	172
	H19-No.4 (傾斜45°)	107.54	109.94	N16E	87W	178.4	2.5	有	非平滑	-	正	右	107 108 109 110
	1号機 試験坑	-	-	N5E ~ N13E	72W ~ 78W	500.0	不明	-	-	-	-	-	-

D-5破碎帯 (軟弱な花崗岩幅) N5° E72° W ~ N13° E78° W
 D-5破碎帯 (白色粘土, 軟弱な花崗岩及び亀裂の多い花崗岩) N5° E72° W ~ N13° E78° W
 N25° E71° W
 N14° E81° W
 弱い破碎部 N11° E75° W

凡例

- アプライト
- 破碎部
- 節理

凡例

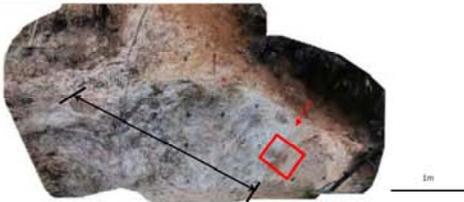
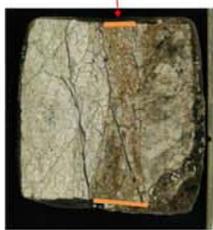
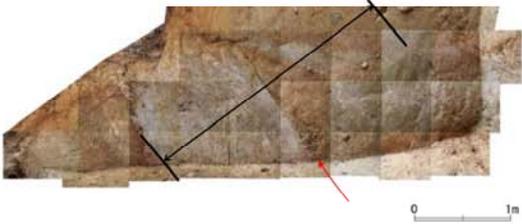
- ← → : 最新活動面
- ← → : 破碎幅
- : 断層ガウジ
- : 粘土の狭在物が認められる箇所
- *1: 露頭
- *2: 試験坑

【破碎幅】
 粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
 平滑：最新活動面が直線的なもの
 非平滑：最新活動面が湾曲するもの

169(分類A)①
 破碎幅について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

7. H-3a破砕帯
性状一覧表(2/3)

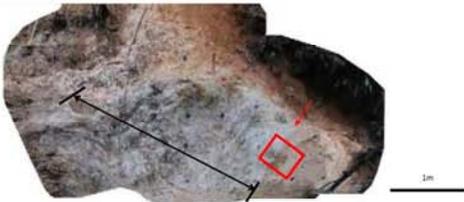
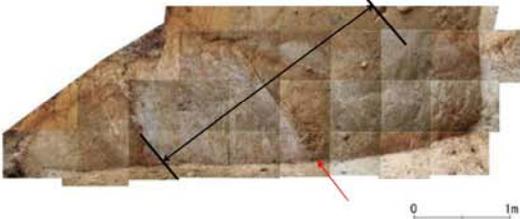
破砕帯名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ 断層角機の 幅(cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		写真	
		上層深度 (m)	下層深度 (m)					明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平		
H-3a	既往露頭	(T.P.67.0m)		N12W	61E	300.0	4.0	有 *1	平滑 *1	14R	-	右		
	既往露頭 拡張部	-	-	N4E	70E	100.0	4.0	有 *1	平滑 *1	-	-	-		
	追加ピット	-	-	N2E	57E	250.0	7.5	有 *1	非平滑 *1	-	-	-		

凡 例			
	:最新活動面		:破砕幅
	:断層ガウジ		:粘土の狭在物が認められる箇所
*1: 露頭	*2: 試験坑		

【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

7. H-3a破砕帯
性状一覽表(2/3)

破砕帯名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・断層角礫の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真	
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明確なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平		
H-3a	既往露頭	(T.P.67.0m)		N12W	61E	300.0	4.0	有*1	平滑*1	14R	-	右		
	既往露頭 拡張部	-	-	N4E	70E	100.0	4.0	有*1	平滑*1	-	-	-		
	追加ピット	-	-	N2E	57E	250.0	① 5.0	有*1	非平滑*1	-	-	-		

170(分類A)①
断層ガウジ・断層角礫の幅について、細分化カタログに基づく数値の和になっていなかった。

凡 例			
	: 最新活動面		: 破砕幅
	: 断層ガウジ		: 粘土の狭在物が認められる箇所
	*1: 露頭		*2: 試験坑

【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

8. D-2~D-16破碎帯
性状一覧表(3/8)

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ 断層角確の 幅 (cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		写 真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明確な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
D-3	H19-No.2 (傾斜42°)	207.94	208.69	NS	66W	71.3	9.0	有	非平滑	60L	-	-	
	H19-No.3 (鉛直)	30.38	30.48	-	-	5.0	5.0	有	非平滑	-	-	-	
	H19-No.4 (傾斜45°)	10.48	11.53	N4W	70W	95.2	7.7	有	非平滑	50L	-	-	
	H27-B-1 (鉛直)	33.27	35.90	N16E	81W	41.1	1.5	有	非平滑	76R	正	-	

凡 例			
	: 最新活動面		: 破碎幅
	: 断層ガウジ		: 粘土の狭在物が認められる箇所
	* 1: 露頭		* 2: 試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

8. D-2~D-16破碎帯
性状一覽表(3/8)

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ 断層角種の 幅 (cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		写 真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
D-3	H19-No.2 (傾斜42°)	207.94	208.69	NS	66W	71.3	9.0	有	非平滑	60L	-	-	
	H19-No.3 (鉛直)	30.38	30.48	-	-	5.0	5.0	有	非平滑	-	-	-	
	H19-No.4 (傾斜45°)	10.48	11.53	N4W	70W	95.2	7.7	有	非平滑	50L	-	-	
H27-Br-1 (鉛直)	33.27	35.90	N16E	81W	41.1	1.5	有	非平滑	76R	正	-		

171(分類A)①
断層ガウジの範囲について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

凡 例			
	:最新活動面		:破碎幅
	:断層ガウジ		:粘土の狭小物が認められる箇所
	*1:露頭		*2:試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

8. D-2~D-16破碎帯
性状一覽表(4/8)

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層方ウイン断層角の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真	
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平		
D-4	H19-No.12 (傾斜45°)	104.12	104.22	N4W	83W	7.9	1.1	無	-	50L	正	右	104 105	
	H19-No.4 (傾斜45°)	59.22	59.59	N10W	89W	26.6	フィルム状	無	-	80L	-	-	59 60	
	H20-1-8 (鉛直)	24.96	26.15	N5E	79W	23.0	10.0	無	-	80R	-	-	24 25 26 27	
		H20-1-9 (傾斜45°)	11.19	11.73	N21E	70W	26.0	フィルム状	有	非平滑	48L	-	-	11 12
		H27-D5-1 (傾斜45°)	22.91	23.23	N35E	74W	28.4	0.3	無	-	90	正	-	22 23 24

凡 例

: 最新活動面
 : 破碎幅
 : 断層ガウジ
 : 粘土の狭在物が認められる箇所
 * 1: 露頭
 * 2: 試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

8. D-2~D-16破砕帯
性状一覧表(4/8)

破砕帯名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ断層角種の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真	
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平		
D-4	H19-No.12 (傾斜45°)	104.12	104.22	N4W	83W	7.9	1.1	無	-	50L	正	右	104 105	
	H19-No.4 (傾斜45°)	59.22	59.59	N10W	89W	26.6	フィルム状	無	-	80L	-	-	59 60	
	H20-①-8 (鉛直)	24.96	26.15	N5E	79W	23.0	10.0	無	-	80R	-	-	24 25 26 27	
		H20-①-9 (傾斜45°)	11.19	11.73	N21E	70W	26.0	フィルム状	有	非平滑	48L	-	-	11 12
		H27-D5-1 (傾斜45°)	22.91	23.23	N35E	74W	28.4	0.3	無	-	90	正	-	22 23 24

172(分類A)①
断層ガウジの範囲について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

凡 例

: 最新活動面
 : 破砕幅
 : 断層ガウジ
 : 粘土の狭在物が認められる箇所
 * 1: 露頭
 * 2: 試掘坑

【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

8. D-2~D-16破碎帯
性状一覧表(7/8)

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ 断層角線の 幅 (cm)	最新活動面		乗線 方向	変位センス		写真		
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明確な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平			
D-13	H20-6-7 (鉛直)	47.73	47.90	N37W	39SW	14.0	フィルム状	無	-	75L	-	-	47		48
	H20-6-2 (鉛直)	12.15	12.85	-	-	30.0	2.3	無	-	70R	-	-	12		13
	H20-6-3 (鉛直)	46.95	48.51	N42W	68W	38.0	1.5	無	-	65L	-	-	46 47 48		47 48 49
D-15	H24-B14-1 (傾斜45°)	21.63	22.57	N25E	67W	87.9	フィルム状	無	-	2L	-	-	21 22		22 23

凡 例

: 最新活動面
 : 破碎幅
 : 断層ガウジ
 : 粘土の狭在物が認められる箇所
 * 1: 露頭
 * 2: 試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

8. D-2~D-16破碎帯
性状一覧表(7/8)

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ 断層角礫の 幅 (cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		写真	
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平		
D-13	H20-6-7 (鉛直)	47.73	47.90	N37W	39SW	14.0	フィルム状	無	-	75L	-	-	47	
	H20-6-2 (鉛直)	12.15	12.85	-	-	30.0	2.3	無	-	70R	-	-	12	
	H20-6-3 (鉛直)	46.95	48.51	N42W	68W	38.0	1.5	無	-	65L	-	-	46, 47, 48, 49	
D-15	H24-B14-1 (傾斜45°)	21.63	22.57	N25E	67W	87.9	フィルム状	無	-	2L	-	-	21	
													22	

173(分類A)①
破碎幅の範囲について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

凡 例			
	: 最新活動面		: 破碎幅
	: 断層ガウジ		: 粘土の狭在物が認められる箇所
	* 1: 露頭		* 2: 試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

9. D-17~D-28破碎帯
性状一覽表(1/9)

- 最新活動面のせん断構造・変形構造の有無については、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
- 最新活動面の平滑さについては、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
- 最新活動面の変位センスについては、薄片の観察による認定を基本としている。
- なお、上記以外の観察方法で認定したものについては、表中に注書きしている。

破砕帯名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・ 断層角礫の 幅 (cm)		最新活動面		条線 方向	変位センス		写 真		
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)				せん断構造 変形構造	平滑さ	鉛直	水平						
D-17	H19-No.16 (鉛直)	158.45	158.51	(未測定)		2.2	-	-	-	-	-	-	-	158		159
	H19-No.17 (傾斜65°)	118.22	118.25	N11E	59W	2.2	2.2	無	-	87R	-	-	-	118		119
D-18	H19-No.16 (鉛直)	159.23	159.62	(未測定)		22.0	-	-	-	-	-	-	-	159		160
	H19-No.17 (傾斜65°)	118.66	119.29	N14E	57W	53.0	2.6	無	-	1R	-	-	-	118 119		119 120

凡 例

 : 最新活動面
  : 破砕幅
  : 断層ガウジ
  : 粘土の狭在物が認められる箇所

* 1: 露頭
 * 2: 試掘坑

【破砕幅】
 粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
 固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
 の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
 平 滑：最新活動面が直線的なもの
 非平滑：最新活動面が湾曲するもの

9. D-17~D-28破碎帯
性状一覧表(1/9)

・ 最新活動面のせん断構造・変形構造の有無については、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
 ・ 最新活動面の平滑さについては、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
 ・ 最新活動面の変位センスについては、薄片の観察による認定を基本としている。
 ・ なお、上記以外の観察方法で認定したものについては、表中に注書きしている。

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ 断層角種の 幅 (cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明確な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
D-17	H19-No.16 (鉛直)	158.45	158.51	(未測定)		2.2	-	-	-	-	-	-	158
	H19-No.17 (傾斜65°)	118.22	118.25	N11E	59W	2.2	2.2	無	-	87R	-	-	118
D-18	H19-No.16 (鉛直)	159.23	159.62	(未測定)		22.0	-	-	-	-	-	-	159
	H19-No.17 (傾斜65°)	118.66	119.29	N14E	57W	53.0	2.6	無	-	1R	-	-	118 119 120

174(分類A)①
 破碎幅及び断層ガウジの範囲について、細分化カタログから転記したが、
 転記を誤ったもの。

凡 例			
	: 最新活動面		: 破碎幅
	: 断層ガウジ		: 粘土の狭在物が認められる箇所
	*1: 露頭		*2: 試掘坑

【破碎幅】
 粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
 固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
 の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
 平 滑：最新活動面が直線的なもの
 非平滑：最新活動面が湾曲するもの

9. D-17~D-28破碎帯
性状一覧表(5/9)

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ・断層角礫の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
D-21	H20-4-10 (鉛直)	41.92	42.78	N11W	73W	16.0	フィルム状	無	-	60R	-	-	41 42 43
	H20-4-1 (鉛直)	63.91	64.44	N19E	68W	17.0	フィルム状	無	-	80L	-	-	63 64 65
	H20-4-5 (鉛直)	24.96	25.12	N11E	62W	11.0	フィルム状	無	-	90	-	-	24 25 26
D-22	H20-6-4 (鉛直)	46.34	46.69	N1W	70W	13.0	-	-	-	75R	-	-	46 47
	H20-6-1 (鉛直)	9.79	9.86	N7W	63W	4.5	4.5	無	-	-	-	-	9 10

凡 例

: 最新活動面
 : 破碎幅
 : 断層ガウジ
 : 粘土の狭在物が認められる箇所
 *1: 露頭
 *2: 試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

9. D-17~D-28破碎帯
性状一覧表(5/9)

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガワジ・断層角礫の幅 (cm)	最新活動面		多様方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
D-21	H20-4-10 (鉛直)	41.92	42.78	N11W	73W	16.0	フィルム状	無	-	60R	-	-	41 42 43
	H20-4-1 (鉛直)	63.91	64.44	N19E	68W	17.0	フィルム状	無	-	80L	-	-	63 64 65
	H20-4-5 (鉛直)	24.86	25.12	N11E	62W	11.0	フィルム状	無	-	90	-	-	24 25 26
D-22	H20-6-4 (鉛直)	46.34	46.69	N1W	70W	13.0	-	-	-	75R	-	-	46 47
	H20-6-1 (鉛直)	9.79	9.86	N7W	63W	4.5	4.5	無	-	-	-	-	9 10

175(分類A)①
破碎幅の範囲について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

凡 例	
	:最新活動面
	:破碎幅
	:断層ガワジ
	:粘土の狭在物が認められる箇所
* 1:	露頭
* 2:	試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

10. D-29~D-47破碎帯
性状一覧表(3/10)

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ・ 断層角線の 幅 (cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		写 真
		上層深度 (m)	下層深度 (m)					明確な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
D-34	H24-B15-4 (傾斜80°)	63.52	67.32	-	-	218.0	-	-	-	50R	-	-	
	H24-B15-3 (鉛直)	68.54	69.00	(未測定)		23.0	0.5	無	-	40R	-	-	
	H19-No.8 (傾斜60°)	143.12	144.21	N39W	64E	90.0	1.5	無	-	50R	-	-	

凡 例

:最新活動面
 :破碎幅
 :断層ガウジ
 :粘土の狭在物が認められる箇所
 *1:露頭
 *2:試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

10. D-29~D-47破碎帯
性状一覽表(3/10)

第657回審査会合
机上配付資料2 修正後

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層方角・断層角の幅 (cm)	最新活動面			条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明確なせん断構造	平滑さ	鉛直		水平		
D-34	H24-B15-4 (傾斜80°)	63.52	67.32	-	-	218.0	-	-	-	50R	-	-	63 64 65 66 67 68	
	H24-B15-3 (鉛直)	68.54	68.95	(未測定)		23.0	0.5	無	-	40R	-	-	68 69	
	H19-No.8 (傾斜60°)	143.12	144.21	N39W	64E	90.0	1.5	無	-	50R	-	-	143 144 145	

176(分類A)①
破碎帯範囲の下端深度について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。



【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

10. D-29~D-47破砕帯
性状一覧表(8/10)

破砕帯名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ断層角種の幅 (cm)	最新活動面		索線方向	変位センス		写真	
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造変形構造	平滑さ		鉛直	水平		
D-42	H27-B-1 (傾斜45°)	139.82	139.88	N27E	88E	4.4	0.1	無	-	35L	正	右	139 	140
	H27-B-2 (傾斜45°)	127.41	127.48	N18E	82E	5.6	-	-	-	20L	-	右	127 	128
	H24-B14-2 (傾斜45°)	60.85	61.12	N1E	83E	19.7	-	-	-	72R	-	-	60  61 	61 62
D-43	H20-①-5 (鉛直)	31.28	31.44	N33W	75W	5.0	-	-	-	75L	-	-	31 	32
	H20-①-6 (傾斜50°)	14.41	14.42	N53W	60S	1.5	-	-	-	66R	-	-	14 	15
	H27-B-3 (鉛直)	77.72	77.90	N38W	76SW	4.4	フィルム状	無	-	90	-	-	77 	78

凡例					
	:最新活動面		:破砕幅		:断層ガウジ
	:粘土の狭在物が認められる箇所				
				*1:露頭	
				*2:試掘坑	

【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

10. D-29~D-47破砕帯
性状一覧表(8/10)

破砕帯名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層カウシ 断層角縁の 幅 (cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
D-42	H27-B-1 (傾斜45°)	139.82	139.88	N27E	88E	4.4	0.1	無	-	35L	正	右	139  140
	H27-B-2 (傾斜45°)	127.41	127.48	N18E	82E	5.6	-	-	-	20L	-	右	127  128
	H24-B14-2 (傾斜45°)	60.85	61.12	N1E	83E	19.7	-	-	-	72R	-	-	60  61 61  62
D-43	H20-①-5 (鉛直)	31.28	31.44	N33W	75W	5.0	-	-	-	75L	-	-	31  32
	H20-①-6 (傾斜50°)	14.41	14.42	N53W	60S	1.5	-	-	-	66R	-	-	14  15
	H27-Br-3 (鉛直)	77.72	77.90	N38W	76SW	4.4	フィルム状	無	-	90	-	-	77  78

177(分類A)①
破砕幅の範囲について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

凡例					
	:最新活動面		:破砕幅		:断層ガウジ
	:粘土の狭在物が認められる箇所		* 1:露頭		* 2:試掘坑

【破砕幅】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

11.f-2-3~f-20-11 破碎帯
性状一覽表(1/9)

第657回審査会合
机上配付資料2 修正前

- ・ 最新活動面のせん断構造・変形構造の有無については、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
- ・ 最新活動面の平滑さについては、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
- ・ 最新活動面の変位センスについては、薄片の観察による認定を基本としている。
- ・ なお、上記以外の観察方法で認定したものについては、表中に注書きしている。

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ 断層角縁の 幅 (cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		写 真	
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明確な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平		
F-2-3	H19-No.2 (傾斜42°)	146.29	146.32	N7E	64W	3.0	3.0	無	-	35R	-	-	146	
F-2-7	H19-No.2 (傾斜42°)	191.10	191.14	N2E	66W	3.0	3.0	無	-	73L	-	-	191	
F-2-8	H19-No.2 (傾斜42°)	202.81	202.85	N32E	64W	4.0	4.0	無	-	23L	正	右	202	
	H19-No.3 (鉛直)	28.77	28.82	N32E	80W	2.0	フィルム状	無	-	90	-	-	28	
F-2-10	H19-No.2 (傾斜42°)	212.00	212.07	N6W	63W	4.5	3.8	無	-	84R (不明)	-	-	212	
	H19-No.3 (鉛直)	42.75	42.81	N17E	77W	1.5	フィルム状	有	非平滑	75L	-	-	42	
	H19-No.4 (傾斜45°)	16.13	16.31	N35E	62W	5.6	2.0	有	非平滑	38L	-	-	16	

凡 例

: 最新活動面
 : 破碎幅
 : 断層ガウジ
 : 粘土の狭在物が認められる箇所
 * 1: 露頭
 * 2: 試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

11.f-2-3~f-20-11 破碎帯
性状一覽表(1/9)

第657回審査会合
机上配付資料2 修正後

- ・ 最新活動面のせん断構造・変形構造の有無については、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
- ・ 最新活動面の平滑さについては、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
- ・ 最新活動面の変位センスについては、薄片の観察による認定を基本としている。
- ・ なお、上記以外の観察方法で認定したものについては、表中に注書きしている。

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ・ 断層角礫の 幅 (cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		写 真
		上層深度 (m)	下層深度 (m)					明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
F-2-3	H19-No.2 (傾斜42°)	146.29	146.32	N7E	64W	3.0	3.0	無	-	35R	-	-	146
F-2-7	H19-No.2 (傾斜42°)	191.10	191.14	N2E	66W	3.0	3.0	無	-	73L	-	-	191
F-2-8	H19-No.2 (傾斜42°)	202.81	202.85	N32E	64W	① 2.5	② 2.5	無	-	23L	正	右	202
	H19-No.3 (鉛直)	28.77	28.82	N32E	80W	2.0	フィルム状	無	-	90	-	-	28
F-2-10	H19-No.2 (傾斜42°)	212.00	212.07	N6W	63W	4.5	3.8	無	-	84R (不明瞭)	-	-	212
	H19-No.3 (鉛直)	42.75	42.81	N17E	77W	1.5	フィルム状	有	非平滑	75L	-	-	42
	H19-No.4 (傾斜45°)	16.13	16.31	N35E	62W	5.6	2.0	有	非平滑	38L	-	-	16

- 178(分類A)①
破碎幅について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。
- 179(分類A)②
断層ガウジ・断層角礫の幅について、細分化カタログに基づく数値の和になっていなかった。

凡 例

: 最新活動面
 : 破碎幅
 : 断層ガウジ
 : 粘土の狭在物が認められる箇所
 * 1: 露頭
 * 2: 試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

11.f-2-3~f-20-11 破碎帯
性状一覧表 (3/9)

第657回審査会合
机上配付資料2 修正前

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ・断層角線の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明確なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
f-4-9	H19-No.4 (傾斜45°)	175.27	175.28	N29W	78W	1.1	1.1	無	-	22R	-	-	175 
f-4-10	H19-No.4 (傾斜45°)	175.64	175.65	N14E	76W	1.0	フィルム状	有	非平滑	64R	-	-	175 
f-4-12	H19-No.4 (傾斜45°)	218.73	218.74	N20E	74W	1.0	1.0	無	-	64L	-	-	218 
f-6-2	H19-No.4 (傾斜45°)	234.32	236.15	N28W	88W	134.0	-	-	-	20R	-	-	234 225 
													235 236 236 237 
	H19-No.6 (傾斜50°)	167.53	168.54	N41W	69W	80.0	5.0	無	-	23R	-	-	167 168 

凡 例

 : 最新活動面
  : 破碎幅
  : 断層ガウジ
  : 粘土の狭在物が認められる箇所
 * 1: 露頭
 * 2: 試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

参考2-127

11.f-2-3~f-20-11 破碎帯
性状一覧表 (3/9)

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ・断層角礫の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真		
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明確なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平			
f-4-9	H19-No.4 (傾斜45°)	175.27	175.28	N29W	78W	1.1	1.1	無	-	22R	-	-	175		176
f-4-10	H19-No.4 (傾斜45°)	175.64	175.65	N14E	76W	1.0	フィルム状	有	非平滑	64R	-	-	175		176
f-4-12	H19-No.4 (傾斜45°)	218.73	218.74	N20E	74W	1.0	1.0	無	-	64L	-	-	218		219
f-6-2	H19-No.4 (傾斜45°)	234.32	236.15	N28W	88W	134.0	-	-	-	20R	-	-	234		225
													235		236
													236		237
	H19-No.6 (傾斜50°)	167.53	168.54	N41W	69W	80.0	5.0	無	-	23R	-	-	167		168
													168		169

180, 181 (分類A)①
破碎幅及び断層ガウジの範囲について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

凡 例	
	: 最新活動面
	: 破碎幅
	: 断層ガウジ
	: 粘土の狭在物が認められる箇所
* 1:	露頭
* 2:	試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

12.f-①-1-3~f-④-13破碎帯
性状一覧表(3/17)

第657回審査会合
机上配付資料2 修正前

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ・ 断層角礫の 幅 (cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		写真		
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明確な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平			
f-①-4-3	H20-①-4 (鉛直)	21.10	21.15	N19E	74W	1.5	フィルム状	無	-	90	-	-	21		22
f-①-9-2	H20-①-9 (傾斜45°)	45.52	45.54	N42W	59W	2.0	フィルム状	無	-	79L	-	-	45		46
f-①-9-3	H20-①-9 (傾斜45°)	51.50	51.53	N36W	61W	2.8	2.8	有	非平滑	46L (不明瞭)	-	-	51		52
f-①-10-2	H20-①-10 (鉛直)	18.16	18.84	N26E	81W	13.0	-	-	-	90	-	-	18		19
f-②-1-1	H20-②-1 (鉛直)	45.13	46.34	N3W	60W	53.0	3.0	無	-	80L	-	-	45		46
													46		
f-②-1-2	H20-②-1 (鉛直)	46.85	46.97	N63E	71S	3.7	0.6	無	-	36R	-	-	46		47
f-②-1-3	H20-②-1 (鉛直)	48.26	48.95	N52W	71SW	25.0	0.7	有	非平滑	65L	-	-	48		49

凡 例

:最新活動面
 :破碎幅
 :断層ガウジ
 :粘土の狭在物が認められる箇所
 *1:露頭
 *2:試験坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

12.f-①-1-3~f-④-13破碎帯
性状一覧表(3/17)

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ・断層角礫の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真		
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明確なせん断構造変形構造	平滑さ		鉛直	水平			
f-①-4-3	H20-①-4 (鉛直)	21.10	21.15	N19E	74W	1.5	フィルム状	無	-	90	-	-	21		22
f-①-9-2	H20-①-9 (傾斜45°)	45.52	45.54	N42W	59W	2.0	フィルム状	無	-	79L	-	-	45		46
f-①-9-3	H20-①-9 (傾斜45°)	51.50	① 51.52	N36W	61W	② 2.1	③ 2.1	有	非平滑	46L (不明瞭)	-	-	51		52
f-①-10-2	H20-①-10 (鉛直)	18.16	18.84	N26E	81W	13.0	-	-	-	90	-	-	18		19
f-②-1-1	H20-②-1 (鉛直)	45.13	46.34	N3W	60W	53.0	3.0	無	-	80L	-	-	45		46
f-②-1-2	H20-②-1 (鉛直)	46.85	46.97	N63E	71S	3.7	0.6	無	-	36R	-	-	46		47
f-②-1-3	H20-②-1 (鉛直)	48.26	48.95	N52W	71SW	25.0	0.7	有	非平滑	65L	-	-	48		49

- 182(分類A)①
破碎帯範囲の下端深度について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。
- 183(分類A)②
破碎幅について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。
- 184(分類A)③
断層ガウジ・断層角礫の幅について、細分化カタログに基づく数値の和になっていなかった。



【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

12.f-①-1-3~f-④-13破碎帯
性状一覧表(9/17)

第657回審査会合
机上配付資料2 修正前

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ 断層角縁の 幅 (cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		写真	
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平		
f-⑥-2-4	H20-⑥-6 (鉛直)	35.97	36.14	N17E	56W	9.0	-	-	-	25L	-	-	35 36 37	
	H20-⑥-4 (鉛直)	36.83	37.27	N12E	31W	30.0	-	-	-	45L	-	-	36 37 38	
	H20-⑥-2 (鉛直)	37.27	37.50	N28E	22W	21.0	1.2	無	-	55R	-	-	37 38	
f-⑥-2-5	H20-⑥-7 (鉛直)	67.88	68.20	N10W	49W	6.7	-	-	-	90	-	-	67 68 69	
	H20-⑥-2 (鉛直)	44.73	44.79	N17W	30W	5.5	フィルム状	無	-	67L	-	-	44 45	

凡 例					
	:最新活動面		:破碎幅		:断層ガウジ
					:粘土の狭在物が認められる箇所
					*1:露頭 *2:試験坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

12.f-①-1-3~f-④-13破碎帯
性状一覧表(9/17)

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ・断層角種の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
f-⑥-2-4	H20-⑥-6 (鉛直)	35.97	36.14	N17E	56W	9.0	-	-	-	25L	-	-	35 36 37
	H20-⑥-4 (鉛直)	36.83	37.27	N12E	31W	30.0	-	-	-	45L	-	-	36 37 38
	H20-⑥-2 (鉛直)	37.27	37.50	N28E	22W	21.0	1.2	無	-	55R	-	-	37 38
f-⑥-2-5	H20-⑥-7 (鉛直)	67.88	68.20	N10W	49W	6.7	-	-	-	90	-	-	67 68 69
	H20-⑥-2 (鉛直)	44.73	44.79	N17W	30W	5.5	フィルム状	無	-	67L	-	-	44 45

185(分類A)①
断層ガウジの範囲について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

凡 例			
	:最新活動面		:破碎幅
	:断層ガウジ		:粘土の狭在物が認められる箇所
	*1:露頭		*2:試験坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

14.H-1~f-b-4-6破碎帯
性状一覧表(5/13)

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ・断層角線の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
H-3e	H27-B-3 (傾斜45°)	91.35	91.54	-	-	16.9	1.0	無	-	0	-	-	91  92
	試験坑	-	-	N12E	75W	30.0	フィルム状	-	-	-	-	-	 <p>幅 25~30 cm の小破碎帯。幅 5 cm の砂状部と幅 20 cm の砂状~角礫状部からなり、上盤側に幅 1~2 mm の褐色の粘土が付着。西側壁では幅 30 cm 程度の白色粘土が網状に入る角礫状部になる。</p> <p>※ 幅 5~10 mm の黄白色粘土。</p> <p>N55°W 60°S と N30°E 65°W の節理が交叉した部分が砂状。節理付近の幅 1 cm 程度が粘土状。</p>
H-4	試験坑	-	-	N14E	70W	40.0	2.0	-	-	-	-	-	 <p>幅 0.5~20 mm, 桃白色粘土付着</p> <p>幅 15~35 cm 角礫状部 (砂を部分的に含む)。南側壁では上盤側に幅 6 mm の白色粘土があり、その下盤に幅 9 cm の軟質部がある。(H-4)</p>



【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部。
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

14.H-1~f-b-4-6破碎帯
性状一覧表(5/13)

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ・断層角礫の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
H27-B-3 (傾斜45°)		91.35	91.54	-	-	16.9	1.0	無	-	0	-	-	91  92
H-3e	試験坑	-	-	N12E	75W	30.0	① 0.2	-	-	-	-	-	 <p>幅 25 ~ 30 cm の小破碎帯。幅 5 cm の砂状部と幅 20 cm の砂状・小角礫状部からなり、上盤側に幅 1 ~ 2 mm の褐色の粘土が付着。西側壁では幅 30 cm 程度の白色粘土が網状に入る角礫状部になる。</p> <p>※ 幅 5 ~ 10 mm の黄白色粘土</p> <p>N55°W 60°S と N30°E 65°W の節理が交叉した部分が砂状。節理付近の幅 1 cm 程度が粘土状。</p>
H-4	試験坑	-	-	N14E	70W	40.0	2.0	-	-	-	-	-	 <p>幅 0.5 ~ 20 mm、桃白色粘土付着</p> <p>幅 15 ~ 35 cm 角礫状部 (砂を部分的に含む)。南側壁では上盤側に幅 6 mm の白色粘土があり、その下盤に幅 9 cm の軟質部がある。(H-4)</p>

186(分類A)①
断層ガウジ・断層角礫の幅について、細分化カタログに基づく数値の和になっていなかった。

凡例	
	:最新活動面
	:破碎幅
	:断層ガウジ
	:粘土の狭在物が認められる箇所
*1	:露頭
*2	:試験坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

14.H-1~f-b-4-6破碎帯
性状一覧表(6/13)

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ-断層角線の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真			
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平				
H-4'	H24-D1-3 (傾斜45°)	14.41	14.52	N31E	66NW	5.5	1.9	有	非平滑	20L	-	右	14		15	
	H24-D1-5 (傾斜50°)	10.45	10.50	N31E	65NW	4.8	0.1	有	非平滑	39L	正	右	10		11	
	H27-B-3 (傾斜45°)	115.00	115.12	N36E	87W	8.5	フィルム状	無	-	56L	-	-	115		116	
H-4'	試験坑	-	-	N20E	70W	40.0	2.0	-	-	-	-	-	-			<p>※—幅 20-30cmの小角礫状部からなる破碎帯で、灰白色粘土フィルムや黒色フィルムが挟まれている。(H-4')</p>

凡 例	
	:最新活動面
	:破碎幅
	:断層ガウジ
	:粘土の狭在物が認められる箇所
*1	:露頭
*2	:試験坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

14.H-1~f-b-4-6破碎帯
性状一覧表(6/13)

破碎帯名	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ・ 断層角礫の 幅 (cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		写真			
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平				
H-4	H24-D1-3 (傾斜45°)	14.41	14.52	N31E	66NW	5.5	1.9	有	非平滑	20L	-	右	14		15	
	H24-D1-5 (傾斜50°)	10.45	10.50	N31E	65NW	4.8	0.1	有	非平滑	39L	正	右	10		11	
	H27-B-3 (傾斜45°)	115.00	115.12	N36E	87W	3.0	フィルム状	無	-	56L	-	-	115		116	
H-4	試験坑	-	-	N20E	70W	40.0	フィルム状	-	-	-	-	-	-			幅 20~30cm の小角礫状部からなる破碎帯で、灰白色粘土フィルムや黒色フィルムが挟まれている。(H-4)

187(分類A)①
破碎幅について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。
188(分類A)②
断層ガウジ・断層角礫の幅について、細分化カタログに基づく数値の和になっていなかった。

凡 例	
	:最新活動面
	:破碎幅
	:断層ガウジ
	:粘土の狭在物が認められる箇所
*1	:露頭
*2	:試験坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

15.非モデル化破碎帯
性状一覧表(1/12)

- ・ 最新活動面のせん断構造・変形構造の有無については、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
- ・ 最新活動面の平滑さについては、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
- ・ 最新活動面の変位センスについては、薄片の観察による認定を基本としている。
- ・ なお、上記以外の観察方法で認定したものについては、表中に注書きしている。

断面図上の 番号	確認 箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層方ウジ 断層角線の 幅 (cm)	最新活動面		変位センス 鉛直 水平	写 真			
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					せん断構造 変形構造	平滑さ					
②	H19-No.2 (傾斜42°)	24.38	24.46	-	-	6.5	0.2	無	-	-	-	24		25
④	H19-No.2 (傾斜42°)	44.90	45.75	N40E	26W	78.8	0.3	無	-	-	-	44		45
⑨	H19-No.4 (傾斜45°)	84.25	84.33	-	-	6.0	3.0	無	-	-	-	84		85
①	H19-No.5 (鉛直)	92.63	92.65	(未測定)	-	1.5	-	-	-	-	-	92		93
②	H19-No.5 (鉛直)	96.46	96.49	(未測定)	-	3.5	フィルム状	有	非平滑	-	-	96		97
③	H19-No.5 (鉛直)	110.93	110.95	(未測定)	-	2.0	-	-	-	-	-	110		111
①	H19-No.10 (鉛直)	28.46	28.53	(未測定)	-	2.0	0.1	無	-	-	-	28		29
②	H19-No.10 (鉛直)	39.09	39.14	(未測定)	-	4.0	0.1	無	-	-	-	39		40

凡 例

:最新活動面
 :破碎幅
 :断層ガウジ
 :粘土の狭在物が認められる箇所
 *1:露頭
*2:試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

15.非モデル化破碎帯
性状一覧表(1/12)

- ・ 最新活動面のせん断構造・変形構造の有無については、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
- ・ 最新活動面の平滑さについては、ボーリングコアの観察による認定を基本としている。
- ・ 最新活動面の変位センスについては、薄片の観察による認定を基本としている。
- ・ なお、上記以外の観察方法で認定したものについては、表中に注書きしている。

断面図上の番号	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層方角: 断層角破の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真	
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					せん断構造	平滑さ		鉛直	水平		
②	H19-No.2 (傾斜42°)	24.38	24.46	-	-	6.5	0.2	無	-	-	-	-	24	25
④	H19-No.2 (傾斜42°)	44.90	45.75	N40E	26W	78.8	0.3	無	-	-	-	-	44	45
													45	46
⑨	H19-No.4 (傾斜45°)	84.25	84.33	-	-	6.0	3.0	無	-	-	-	-	84	85
①	H19-No.5 (鉛直)	92.63	92.65	(未測定)	-	1.5	-	-	-	-	-	-	92	93
②	H19-No.5 (鉛直)	96.46	96.49	(未測定)	-	3.5	フィルム状	有	非平滑	-	-	-	96	97
③	H19-No.5 (鉛直)	110.93	110.95	(未測定)	-	2.0	-	-	-	-	-	-	110	111
①	H19-No.10 (鉛直)	28.46	28.53	(未測定)	-	2.0	0.1	無	-	-	-	-	28	29
②	H19-No.10 (鉛直)	39.09	39.14	(未測定)	-	4.0	0.1	無	-	-	-	-	39	40
													①	①

189(分類A)①
破碎幅の範囲について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

凡 例

:最新活動面
 :破碎幅
 :断層ガウジ
 :粘土の狭在物が認められる箇所
 *1:露頭
*2:試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の
合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

15.非モデル化破碎帯
性状一覧表(2/12)

断面図上の番号	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ 断層角種の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真	
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平		
③	H19-No.10 (鉛直)	73.62	73.63	(未測定)		1.0	1.0	無	-	-	-	-	73	74
①	H19-No.16 (鉛直)	16.01	17.82	(未測定)		116.0	フィルム状	無	-	-	-	-	16 17	17 18
⑦	H19-No.16 (鉛直)	91.50	91.79	(未測定)		15.0	-	-	-	-	-	-	91	92
⑨	H19-No.16 (鉛直)	113.66	113.77	(未測定)		3.9	1.5	無	-	-	-	-	113	114
⑩	H19-No.16 (鉛直)	121.85	122.21	(未測定)		26.0	0.1	無	-	-	-	-	121 122	122 123
⑪	H19-No.16 (鉛直)	130.20	131.28	(未測定)		59.0	-	-	-	-	-	-	130 131	131 132

凡 例

← :最新活動面 ← → :破碎幅 :断層ガウジ :粘土の狭在物が認められる箇所 *1:露頭
 :試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

15.非モデル化破碎帯
性状一覧表(2/12)

断面図上の 番号	確認 箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ 断層角線の 幅 (cm)	最新活動面		乗換 方向	変位センス		写 真	
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平		
③	H19-No.10 (鉛直)	73.62	73.63	(未測定)		1.0	1.0	無	-	-	-	-	73	74
①	H19-No.16 (鉛直)	16.01	17.82	(未測定)		116.0	フィルム状	無	-	-	-	-	16	17
⑦	H19-No.16 (鉛直)	91.50	91.79	(未測定)		15.0	-	-	-	-	-	-	91	92
⑨	H19-No.16 (鉛直)	113.66	113.77	(未測定)		3.9	1.5	無	-	-	-	-	113	114
⑩	H19-No.16 (鉛直)	121.85	122.21	(未測定)		26.0	0.1	無	-	-	-	-	121	122
													122	123
⑪	H19-No.16 (鉛直)	130.20	131.28	(未測定)		59.0	-	-	-	-	-	-	130	131
													131	132

190(分類A)①
破碎幅及び断層ガウジの範囲について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

凡 例	
	:最新活動面
	:破碎幅
	:断層ガウジ
	:粘土の狭在物が認められる箇所
*1:	露頭
*2:	試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

15.非モデル化破碎帯
性状一覧表(4/12)

断面図上の番号	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層方角・断層角種の幅 (cm)	最新活動面			条線方向	変位センス		写真		
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ	鉛直		水平				
④	H19-No.18 (傾斜60°)	155.72	155.75	N36E	76W	1.5	0.3	無	-	-	-	-	-	155		156
⑤	H19-No.18 (傾斜60°)	164.15	164.25	N9E	78W	6.7	-	-	-	-	-	-	-	164		165
⑥	H19-No.18 (傾斜60°)	169.62	169.63	N20E	89W	1.5	1.5	無	-	-	-	-	-	169		170
③	H19-No.19 (傾斜70°)	22.44	22.46	N34W	72E	2.0	2.0	無	-	-	-	-	-	22		23
⑦	H19-No.19 (傾斜70°)	168.28	168.32	-	-	3.0	0.3	無	-	-	-	-	-	168		169
①	H20-[T]-1 (鉛直)	2.66	2.95	-	-	10.0	-	-	-	-	-	-	-	2		3
①	H20-[T]-2 (傾斜54°)	11.73	11.91	-	-	17.0	7.0	無	-	-	-	-	-	11		12
①	H20-[T]-3 (鉛直)	4.96	5.00	N83E	40N	2.5	0.2	無	-	-	-	-	-	4		5
②	H20-[T]-3 (鉛直)	5.53	5.81	N11E	55W	18.0	-	-	-	-	-	-	-	5		6

凡 例

:最新活動面
 :破碎幅
 :断層ガウジ
 :粘土の狭在物が認められる箇所
 *1:露頭
*2:試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

15.非モデル化破碎帯
性状一覧表(4/12)

断面図上の番号	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層方角の断層角の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真		
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平			
④	H19-No.18 (傾斜60°)	155.72	155.75	N36E	76W	1.5	0.3	無	-	-	-	-	155		156
⑤	H19-No.18 (傾斜60°)	164.15	164.25	N9E	78W	6.7	-	-	-	-	-	-	164		165
⑥	H19-No.18 (傾斜60°)	169.62	169.65	N20E	89W	1.5	1.5	無	-	-	-	-	169		170
③	H19-No.19 (傾斜70°)	22.44	22.46	N34W	72E	2.0	2.0	無	-	-	-	-	22		23
⑦	H19-No.19 (傾斜70°)	168.28	168.32	-	-	3.0	0.3	無	-	-	-	-	168		169
①	H20-[1]-1 (鉛直)	2.66	2.95	-	-	10.0	-	-	-	-	-	-	2		3
①	H20-[1]-2 (傾斜54°)	11.73	11.91	-	-	17.0	7.0	無	-	-	-	-	11		12
①	H20-[1]-3 (鉛直)	4.96	5.00	N83E	40N	2.5	0.2	無	-	-	-	-	4		5
②	H20-[1]-3 (鉛直)	5.53	5.81	N11E	55W	18.0	-	-	-	-	-	-	5		6

191(分類A)①
破碎帯範囲の下端深度について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

凡 例

:最新活動面
 :破碎幅
 :断層ガウジ
 :粘土の狭在物が認められる箇所
 *1:露頭
*2:試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の
合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平 滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

15.非モデル化破碎帯
性状一覧表(9/12)

断面図上の 番号	確認 箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ・ 断層角標の 幅 (cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
⑥	H24-B14-1 (傾斜45°)	70.54	71.41	N19E	85W	58.2	-	-	-	40R	正	左	70 71 72
⑦	H24-B14-1 (傾斜45°)	76.94	77.03	N7E	74E	4.5	-	-	-	-	-	-	76 77 78
⑧	H24-B14-1 (傾斜45°)	82.59	83.71	N25E	85W	65.8	-	-	-	60R	正	左	82 83 84
⑨	H24-B14-1 (傾斜45°)	133.38	134.77	N38E	74SE	40.6	1.2	無	-	-	-	-	133 134 135
③	H24-B14-2 (傾斜45°)	47.37	47.40	N38E	85NW	2.3	1.0	無	-	40R	逆	右	47

凡 例

 :最新活動面
  :破碎幅
  :断層ガウジ
  :粘土の狭在物が認められる箇所
 *1:露頭
*2:試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

15.非モデル化破碎帯
性状一覧表(9/12)

断面図上の番号	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ・断層角礫の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					平滑さ	鉛直		水平		
⑥	H24-B14-1 (傾斜45°)	70.54	71.41	N19E	85W	58.2	-	-	-	40R	正	左	70 71 72
⑦	H24-B14-1 (傾斜45°)	76.94	77.03	N7E	74E	4.5	-	-	-	-	-	-	76 77 78
⑧	H24-B14-1 (傾斜45°)	82.59	83.71	N25E	85W	65.8	-	-	-	60R	正	左	82 83 84
⑨	H24-B14-1 (傾斜45°)	133.38	134.77	N38E	74SE	40.6	1.2	無	-	-	-	-	133 134 135
③	H24-B14-2 (傾斜45°)	47.37	47.40	N38E	85NW	2.3	①	③	-	40R	逆	右	47 48

- 192(分類A)①
断層ガウジ・断層角礫の幅について、細分化カタログに基づく数値の和になっていなかった。
- 193(分類A)②
断層ガウジの範囲について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。
- 194(分類A)③
明瞭なせん断構造・変形構造の有無について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

← :最新活動面 ← → :破碎幅 :断層ガウジ ○ :粘土の狭在物が認められる箇所 *1:露頭
↔ :試験坑 *2:試験坑

破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
 粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
 の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。
 【平滑さ】
 平滑：最新活動面が直線的なもの
 非平滑：最新活動面が湾曲するもの

15.非モデル化破碎帯
性状一覧表(10/12)

断面図上の 番号	確認 箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ 断層角線の 幅 (cm)	最新活動面		条線 方向	変位センス		写 真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭な せん断構造 変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
①	H27-Br-3 (鉛直)	40.53	41.10	N51E	73NW	18.7	4.1	無	-	-	-	-	40 41 41 42
①	H27-Br-4 (鉛直)	12.91	13.24	N8E	68W	33.0	-	-	-	-	-	-	12 13 13 14
②	H27-Br-8 (鉛直)	65.81	67.33	N23E	56W	85.0	-	-	-	-	-	-	65 66 66 67 67 68
①	H27-Br-9 (鉛直)	21.26	21.33	N45E	63NW	3.2	0.9	無	-	-	-	-	21 21 22
②	H27-Br-9 (鉛直)	66.50	66.77	N48E	77NW	6.1	0.9	無	-	-	-	-	66 66 67

凡 例

← :最新活動面 ← → :破碎幅 :断層ガウジ :粘土の狭在物が認められる箇所 *1:露頭
 *2:試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、
固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部
の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

15.非モデル化破碎帯
性状一覧表(10/12)

断面図上の番号	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ・断層角縁の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明確なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
①	H27-Br-3 (鉛直)	40.53	41.10	N51E	73NW	16.7	4.1	無	-	-	-	-	40 41 41 42
①	H27-Br-4 (鉛直)	12.91	13.24	N8E	68W	12.4	-	-	-	-	-	-	12 13 13 14
②	H27-Br-6 (鉛直)	65.81	67.33	N23E	56W	85.0	-	-	-	-	-	-	65 66 66 67 67 68
①	H27-Br-9 (鉛直)	21.26	21.33	N45E	63NW	3.2	0.9	無	-	-	-	-	21 21 22
②	H27-Br-9 (鉛直)	66.50	66.77	N48E	77NW	6.1	0.9	無	-	-	-	-	66 66 67

195(分類A)①
破碎幅について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

凡 例

← :最新活動面 ← → :破碎幅 — :断層ガウジ ○ :粘土の狭在物が認められる箇所 *1:露頭
→ :最新活動面 ← → :破碎幅 — :断層ガウジ ○ :粘土の狭在物が認められる箇所 *2:試掘坑

【破碎幅】
粘土状破碎部、砂状破碎部、角礫状破碎部、固結した粘土状破碎部、固結した砂状破碎部、固結した角礫状破碎部の合計の幅とし、破碎部の走向傾斜から真の幅に換算した。

【平滑さ】
平滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

H24—D1—4

柱状図(30.00m～60.00m)

第657回審査会合
机上配付資料3 修正前

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記 事	
												CL'
50			+	花崗斑岩	灰褐色	CL'	100	12	12	0		<ul style="list-style-type: none"> ●52.97～53.46m <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・正断層センスである。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN41° E50° NWである。 ●60.06～60.38m <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・暗緑灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN18° E86° Wである。
							100	7	0	0		
							100	9	0	0		
							100	13	34	0		
							100	6	0	0		
							100	4	0	0		
							100	7	0	0		
							100	10	10	0		
							100	7	0	0		
							100	6	0	0		
							100	6	0	0		
							100	4	0	0		
40			+	にぶい橙	灰褐色	CL'	100	7	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ●52.97～53.46m <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・正断層センスである。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN41° E50° NWである。 ●60.06～60.38m <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・暗緑灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN18° E86° Wである。 	
							100	10	10	0		
							100	7	0	0		
							100	7	0	0		
							100	6	0	0		
							100	6	0	0		
							100	4	0	0		
							100	6	0	0		
							100	6	0	0		
							100	6	0	0		
							100	6	0	0		
							50			+		にぶい橙
100	9	0	0									
100	18	34	0									
100	8	0	0									
100	9	0	0									
100	14	35	0									
100	8	0	0									
100	2	0	0									
100	4	0	0									
100	4	0	0									
100	12	12	0									
50			+	にぶい橙	灰褐色	CL'					100	
							100	9	0	0		
							100	13	34	0		
							100	6	0	0		
							100	4	0	0		
							100	7	0	0		
							100	4	0	0		
							100	6	0	0		
							100	6	0	0		
							100	6	0	0		
							100	6	0	0		

H24—D1—4

柱状図(30.00m～60.00m)

第657回審査会合
机上配付資料3 修正後

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記事
50	40		+	花崗斑岩	灰褐色	CL'	100	12	12	0	<ul style="list-style-type: none"> 34.57～34.63m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 42.37～42.61m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 49.83～52.07m ・緑灰色に変色する。 52.07～52.97m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 52.97～53.46m ・破碎部である。 ・正断層センスである。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN41° E50° NWである。 56.57～59.47m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 60.06～60.38m ・破碎部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・暗緑灰色の未固結粘土状部：異径幅0.3cm ・走向・傾斜はN18° E86° Wである。
						CL'	100	7	0		
						CM'	100	9	0		
						CH'	100	13	34		
						CL'	100	9	0		
						CM'	100	6	0		
						CL'	100	4	0		
						CL'	100	7	0		
						CM'	100	10	10		
						CL'	100	7	0		
						CM'	100	4	0		
						CL'	100	6	0		
						CM'	100	9	0		
						CH'	100	18	34		
						CL'	100	9	0		
						CM'	100	14	35		
						D'	100	8	0		
						CL'	100	4	0		
						CM'	100	12	12		
						CL'	100	6	0		
CM'	100	9	0								
CL'	100	7	0								

196 (分類A)① 断層岩の色調及び断層岩の区分について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

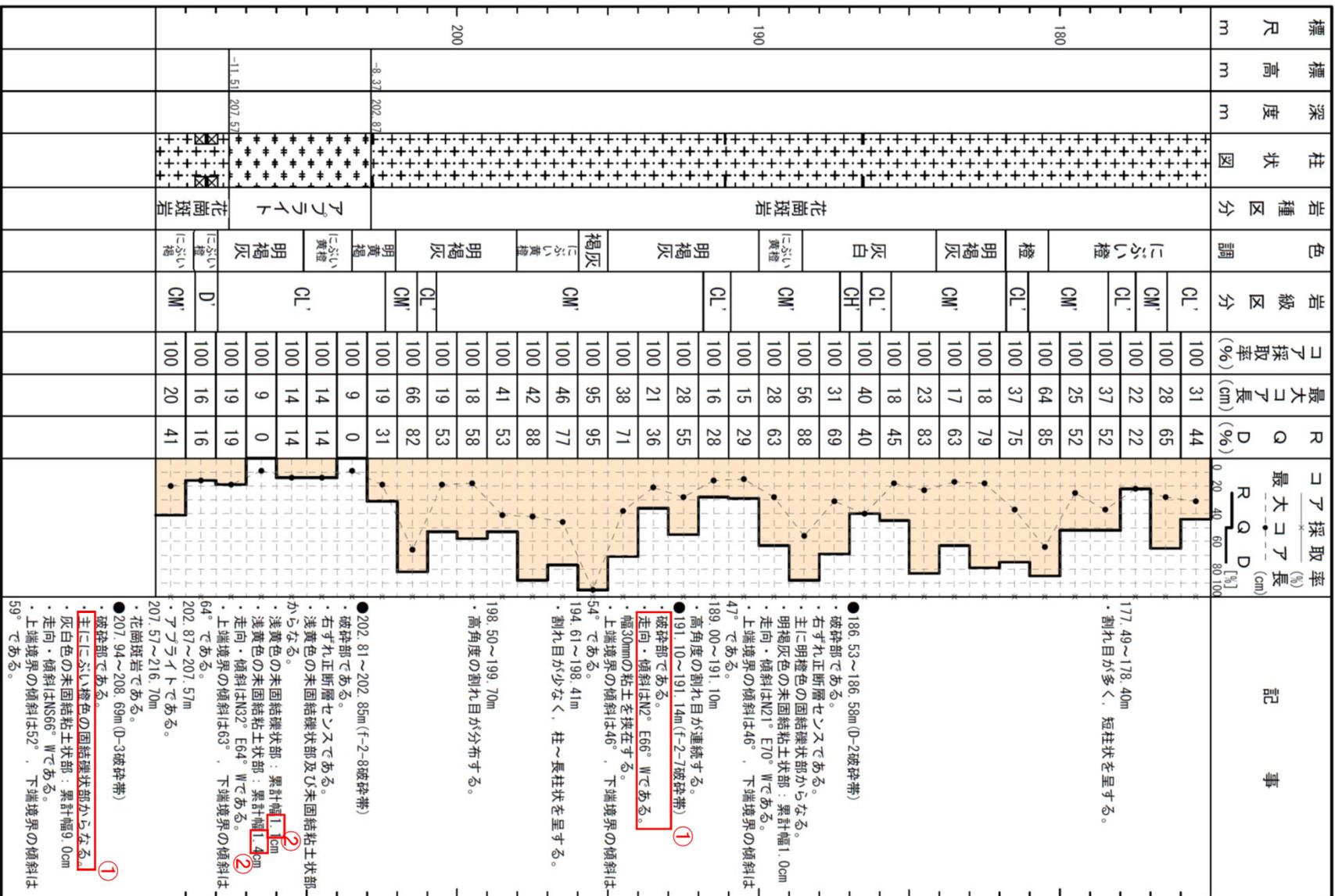
第657回調査会合
机上配付資料3 修正前

柱状図(175.00m～210.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記事						
180			+++++	花崗斑岩	にぶい橙	CL'	100	31	44		<ul style="list-style-type: none"> ●186.53～186.59m (D-2破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に明橙色の固結礫状部からなる。 ・明褐色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN21° E70° Wである。 ・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は47°である。 ・189.00～191.10m ・高角度の割れ目が連続する。 ●191.10～191.14m (f-2-7破砕帯) ・破砕部である。 ・にぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN2° E66° Wである。 ・幅30mmの粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は54°である。 ・194.61～198.41m ・割れ目が少なく、柱～長柱状を呈する。 						
						CL'	100	18	45								
						CL'	100	37	75								
						CL'	100	18	79								
						CM'	100	17	63								
						CM'	100	23	83								
						GH'	100	40	40								
						CL'	100	28	63								
						CM'	100	15	29								
						CL'	100	16	28								
						CL'	100	28	55								
						190			+++++			花崗斑岩	明褐色	CL'	100	21	36
CL'	100	38	71														
CM'	100	95	95														
CM'	100	46	77														
CL'	100	42	88														
CM'	100	41	53														
CL'	100	18	58														
CL'	100	19	53														
CM'	100	66	82														
CL'	100	19	31														
CL'	100	9	0														
200			+++++	フライント	明褐色					CL'	100			14	14	<ul style="list-style-type: none"> ・207.94～208.69m (D-3破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅9.0cm ・走向・傾斜はNS66° Wである。 ・上端境界の傾斜は52°、下端境界の傾斜は59°である。 	
						CL'	100	14	14								
						CL'	100	9	0								
						D'	100	19	19								
						CM'	100	16	16								
						CM'	100	20	41								
									+++++	花崗斑岩	にぶい橙	CL'	100	14	14		<ul style="list-style-type: none"> ・207.94～208.69m (D-3破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅9.0cm ・走向・傾斜はNS66° Wである。 ・上端境界の傾斜は52°、下端境界の傾斜は59°である。
												CL'	100	14	14		
												CL'	100	9	0		
												D'	100	19	19		
												CM'	100	16	16		
												CM'	100	20	41		

柱状図(175.00m～210.00m)

第657回審査会合
机上配付資料3 修正後



177.49～178.40m
・割れ目が多く、短柱状を呈する。

●186.53～186.58m (0-2破砕帯)
・破砕部である。
・右ずれ正断層センスである。
・主に明褐色の固結礫状部からなる。
・明褐色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm
・走向・傾斜はN21° E70° Wである。
・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は47°である。
189.00～191.10m
・高角度の割れ目が連続する。
●191.10～191.14m (f-2-1破砕帯) ①
・破砕部である。
・走向・傾斜はN2° E66° Wである。
・幅30mmの粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は54°である。
194.61～198.41m
・割れ目が少なく、柱～長柱状を呈する。

198.50～199.70m
・高角度の割れ目が分布する。
●202.81～202.85m (f-2-8破砕帯)
・破砕部である。
・右ずれ正断層センスである。
・浅黄色の未固結礫状部及び未固結粘土状部からなる。
・浅黄色の未固結礫状部：累計幅1.0cm ②
・浅黄色の未固結粘土状部：累計幅1.4cm
・走向・傾斜はN32° E64° Wである。
・上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は64°である。
202.87～207.57m
・アラナイトである。
207.57～216.70m
・花崗斑岩である。
●207.94～208.69m (0-3破砕帯)
・破砕部である。
・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ①
・灰白色の未固結粘土状部：累計幅9.0cm
・走向・傾斜はNS66° Wである。
・上端境界の傾斜は52°、下端境界の傾斜は59°である。

197, 200 (分類A) ①
断層岩の色調及び断層岩の区分について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。
198, 199 (分類A) ②
断層ガラス・断層角礫の幅について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

H24-B14-2

柱状図(30.00m～60.00m)

第758回審査会合
机上配付資料1 修正前

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D (%)	記 事
40			+	花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	16	16		<p>32.40～32.67m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。</p>
						CM'	100	13	13		
						CL'	100	15	26		
						CL'	100	9	0		
						CL'	100	6	0		
						CL'	100	9	0		
						CL'	100	9	0		
						CL'	100	6	0		
						CL'	100	9	0		
						CL'	100	9	0		
						CL'	100	6	0		
						CL'	100	0	0		
						CL'	100	0	0		
						CL'	100	0	0		
						50			+		
CM'	100	12	12								
CL'	100	8	0								
CL'	100	7	0								
CL'	100	0	0								
CL'	100	0	0								
CL'	100	0	0								
CL'	100	0	0								
CL'	100	0	0								
CL'	100	0	0								
CL'	100	0	0								
CL'	100	0	0								
CL'	100	0	0								
CL'	100	0	0								

H24—B14—2

柱状図(30.00m～60.00m)

第758回審査会合
机上配付資料1 修正後

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記事
40			[Pattern]	花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	16	16		<p>32.40～32.67m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。</p>
						CM'	100	13	13		
						CL'	100	9	0		
						CL'	100	6	0		
						CL'	100	9	0		
						CL'	100	9	0		
						CL'	100	6	0		
						CL'	100	0	0		
						CL'	100	0	0		
						CL'	100	0	0		
						CL'	100	5	0		
						CL'	100	10	10		
						CM'	100	5	0		
						CL'	100	13	13		
50			[Pattern]	花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	16	16	<p>37.52～37.89m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ● 38.10～38.27m (f-B14-2-2破砕帯) ・破砕部である。 ・淡黄白色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN58° E88° Sである。 ・ライム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は40°、下端境界の傾斜は50°である。</p> <p>42.13～42.71m 43.51～45.20m ・強風化部である。 45.90～47.37m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ● 47.37～47.40m ・破砕部である。 ● 49.24～49.55m (D-44破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層レンズである。 ・主に緑灰色の固結礫状部からなる。 ・灰色の未固結粘土状部：累計幅2.50m ・走向・傾斜はN44° E80° Eである。 50.50～51.43m ・コア欠(ボアホールカマワで破砕部がないことを確認)。 52.92～53.33m ・強風化部である。 53.33～53.36m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり粘土状～粘土混じり礫状を呈する。</p>	
						CM'	100	12	12		
						CL'	100	8	0		
						CL'	100	7	0		
						CL'	100	0	0		
						CL'	100	0	0		
						CL'	100	0	0		
						CL'	100	0	0		
						CL'	100	0	0		
						CL'	100	0	0		
						CL'	100	5	0		
						CL'	100	19	19		
						CL'	100	4	0		
						CL'	100	12	12		
CL'	100	3	0								

201 (分類A) ①
断層岩の色調及び断層岩の区分について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

柱状図(35.00m~70.00m)

第657回調査会合
机上配付資料3 修正後

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記 事
				花崗斑岩	橙	CM'	100	19	32	0	<p>37.15~37.40m ・アズライトである。 37.40~38.82m ・花崗斑岩である。 38.82~40.86m ・アズライトである。 39.02~42.68m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 40.86~41.56m ・花崗斑岩である。 41.56~43.17m ・アズライトである。 43.17~58.93m ・花崗斑岩である。 ●43.17~43.24m(D-45破砕帯) ・破砕帯である。 主に灰黄色の固結礫状部からなる。 暗褐色の未固結粘土状部：累計幅2.0cm 走向・傾斜はN14°E76°Wである。 ・上端境界の傾斜は68°、下端境界の傾斜は73°である。 ●45.52~45.54m(F-9-2破砕帯) ・破砕帯である。 にぶい橙色の固結礫状部からなる。 走向・傾斜はN42°W59°Wである。 ・アズライトの粘土を挟む。 ・上端境界の傾斜は18°、下端境界の傾斜は10°である。 ●51.50~51.52m(F-9-3破砕帯) ・破砕帯である。 灰白色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.1cmである。 ② 走向・傾斜はN36°W61°Wである。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は20°である。 34.20~54.75m ・変質している。 ・にぶい黄橙色の割れ目密集状を呈する。 56.43~56.68m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 58.93~59.25m ・アズライトである。 59.25~60.20m ・アズライトである。 60.20~75.00m ・花崗斑岩である。 62.01~62.25m ・変質している。 ・灰白色の粘土が網目状に分布する。 65.69~66.11m ・変質している。 ・灰白色の粘土が網目状に分布している。 66.55~66.68m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 67.68~67.76m ・変質している。 ・微細な割れ目が分布する。</p>
				花崗斑岩	橙	CM'	100	11	11	0	
				花崗斑岩	にぶい黄橙	CL'	100	28	65	0	
				花崗斑岩	橙	CM'	100	10	10	0	
				花崗斑岩	にぶい橙	CL'	100	8	0	0	
				花崗斑岩	にぶい橙	CM'	100	11	11	0	
				花崗斑岩	にぶい橙	CM'	100	8	0	0	
				花崗斑岩	明楊灰	CM'	100	34	49	0	
				花崗斑岩	明楊灰	CH'	100	41	41	0	
				花崗斑岩	淡橙	CL'	100	19	34	0	
				花崗斑岩	明楊灰	CH'	100	13	55	0	
				花崗斑岩	にぶい黄橙	CL'	100	12	23	0	
				花崗斑岩	明楊灰	CH'	100	7	0	0	
				花崗斑岩	にぶい黄橙	D'	100	7	0	0	
				花崗斑岩	明楊灰	CH'	100	19	19	0	
				花崗斑岩	灰白	CL'	100	6	0	0	
				花崗斑岩	明楊灰	CH'	100	8	0	0	
				花崗斑岩	にぶい橙	CL'	100	25	44	0	
				花崗斑岩	にぶい橙	CH'	100	24	72	0	
				花崗斑岩	明楊灰	CL'	100	6	0	0	
				花崗斑岩	明楊灰	CH'	100	8	0	0	
				花崗斑岩	明楊灰	CL'	100	4	0	0	

2021(分類A)①の下端深度について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。
 203(分類A)②の断面角礫の幅について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

柱状図(0.00m~35.00m)

H20-1-8

孔口標高	T.P.	掘削長
	29.37m	35.00m

第657回審査会合
机上配付資料3 修正前

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R _Q D (%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) R _Q D (%)	記事
	29.37	0.00		有機質土 細砂	黒褐色		100	0	0	0.00~0.16m	・有機質土である。
	28.37	1.00		有機質土 細砂	黒褐色		100	0	0	0.16~1.00m	・礫混じり砂である。
	27.51	1.86		玉石	黄褐色		100	0	0	1.00~1.70m	・玉石である。
				花崗斑岩	浅黄褐色	D'	100	0	0	1.86~16.04m	・硬質の花崗斑岩である。
				花崗斑岩	浅黄褐色	D'	100	0	0	1.86~8.71m	・花崗斑岩である。
				花崗斑岩	黄褐色	D'	100	0	0	8.71~16.06m	・変質している。
				花崗斑岩	黄褐色	D'	100	0	0	16.06~26.15m	・風化を受け軟質化する。
				花崗斑岩	黄褐色	D'	100	0	0	26.15~34.52m	・幅1.5mmの石英脈を挟む。
				花崗斑岩	黄褐色	D'	100	0	0	34.52~35.00m	・幅2~5mm程度の石英脈を挟む。
				アズライト	明黄褐色	CL'	100	20	33	0.00~13.66m	・割れ目沿いにマンガンが濃集する。
				アズライト	明黄褐色	CL'	100	11	22	13.66~14.92m	・変質している。
				アズライト	明黄褐色	CL'	100	7	0	14.92~16.06m	・緑灰色粘土からなる。
				アズライト	明黄褐色	CL'	100	11	11	16.06~14.69m	・割れ目沿いにマンガンが濃集する。
				アズライト	明黄褐色	CL'	100	17	29	14.69~16.04m	・変質している。
				アズライト	明黄褐色	CL'	100	8	0	16.04~26.15m	・明黄褐色を呈し、軟質化している。
				アズライト	明黄褐色	CL'	100	17	31	26.15~16.64m	・アズライトが主体である。
				アズライト	明黄褐色	CL'	100	5	0	16.64~22.30m	・幅2~5mm程度の石英脈を挟む。
				アズライト	明黄褐色	CL'	100	17	30	22.30~24.00m	・花崗斑岩である。
				アズライト	明黄褐色	CL'	100	9	0	24.00~25.52m	・花崗斑岩である。
				アズライト	明黄褐色	CL'	100	11	11	25.52~24.96m	・全体にマンガンが沈着する。
				アズライト	明黄褐色	CL'	100	8	0	24.96~26.15m	・●24.96~26.15m(D-4破砕帯)
				アズライト	明黄褐色	D'	100	5	0	26.15~26.15m	・破砕帯である。
				アズライト	明黄褐色	D'	100	26	60	26.15~26.15m	・主にマンガンが沈着する。
				アズライト	明黄褐色	D'	100	10	10	26.15~26.15m	・主に浅黄色の固結礫状部及び黄白色の固結粘土状部からなる。
				アズライト	明黄褐色	D'	100	13	35	26.15~26.15m	・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅10.0cm
				アズライト	明黄褐色	D'	100	10	10	26.15~26.15m	・走向・傾斜はN5°E79°Wである。
				アズライト	明黄褐色	D'	100	16	37	26.15~26.15m	・上端境界の傾斜は80°、下端境界の傾斜は76°である。
				アズライト	明黄褐色	D'	100	16	39	26.15~26.15m	・26.15~35.00m
				アズライト	明黄褐色	D'	100	13	13	35.00~34.38m	・花崗斑岩である。
				アズライト	明黄褐色	D'	100	14	34	34.38~34.52m	・割れ目沿いにマンガンが濃集する。

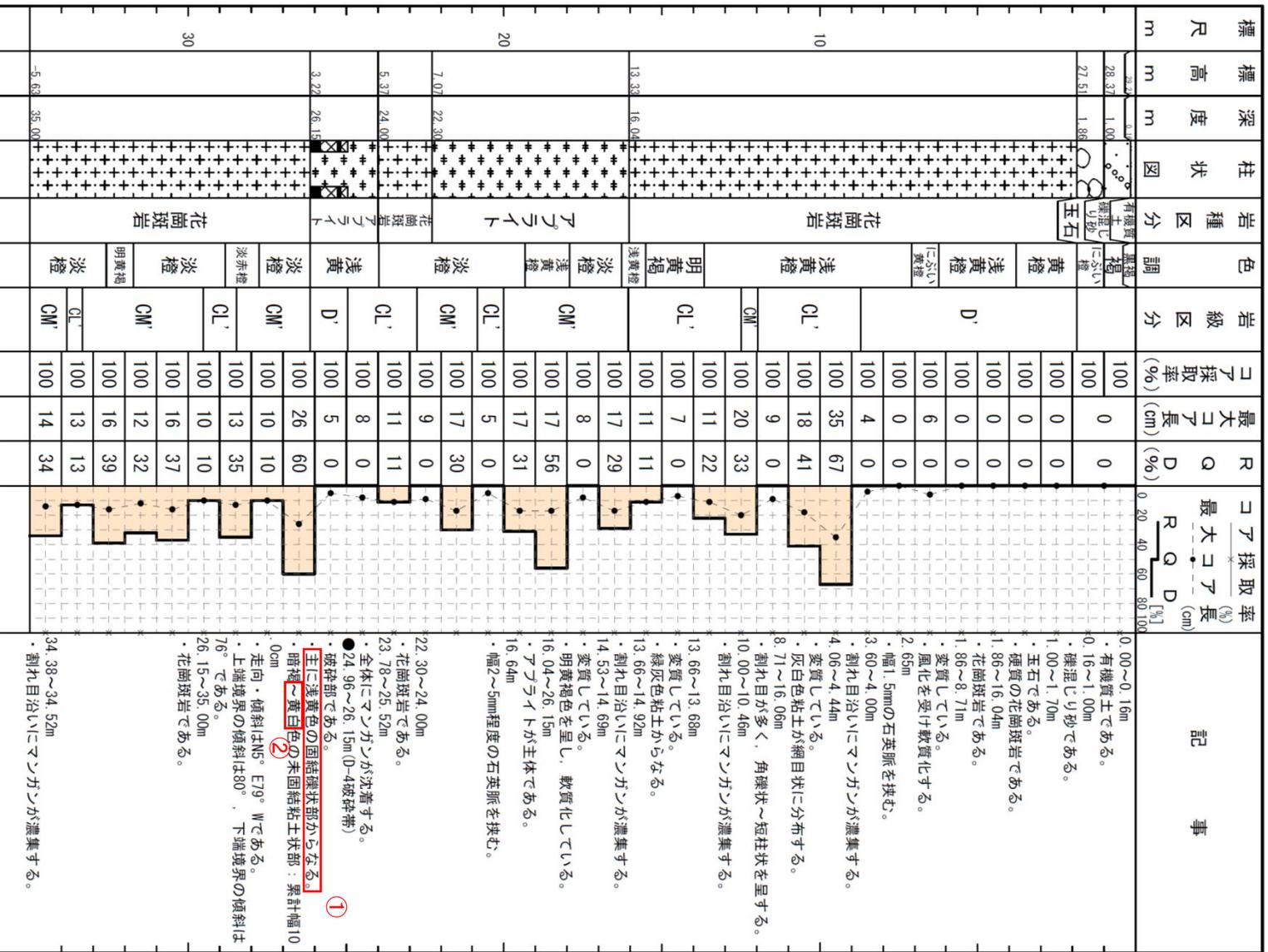
H20-1-8

柱状図(0.00m~35.00m)

第657回審査会合
机上配付資料3 修正後

H20-1-8

孔口標高	T.P.	29.37m	掘削長	35.00m
------	------	--------	-----	--------



204(分類A)①
断層岩の色調及び断層岩の区分について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。
205(分類A)②
断層岩の色調について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

H27—Br—8

柱状図(0.00m～35.00m)

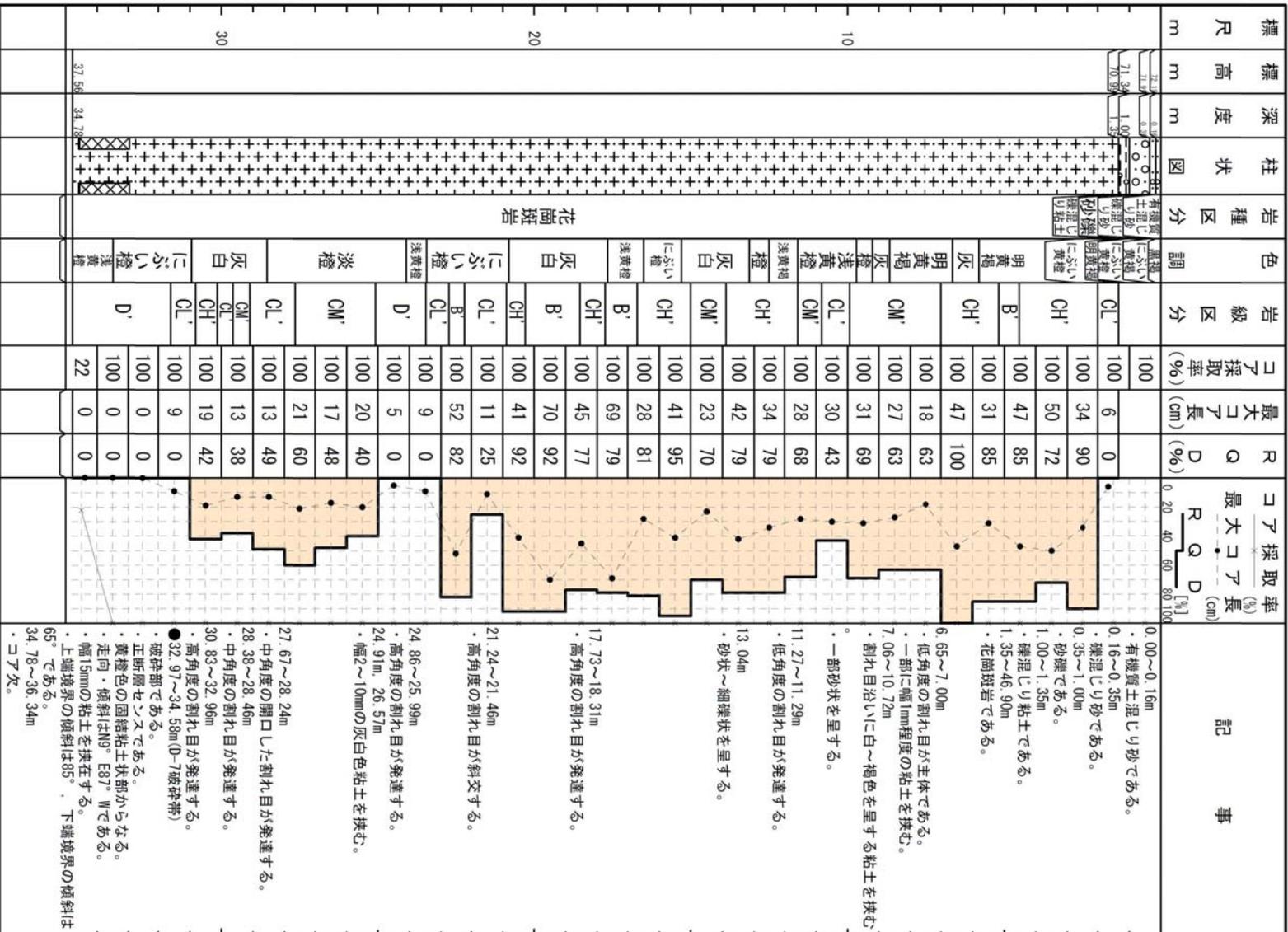
第657回審査会合
机上配付資料3 修正前

H27-Br-8

孔口標高 I.P. 72.34m

掘削長

100.00m



H27—Br—8

柱状図(0.00m～35.00m)

H27-Br-8

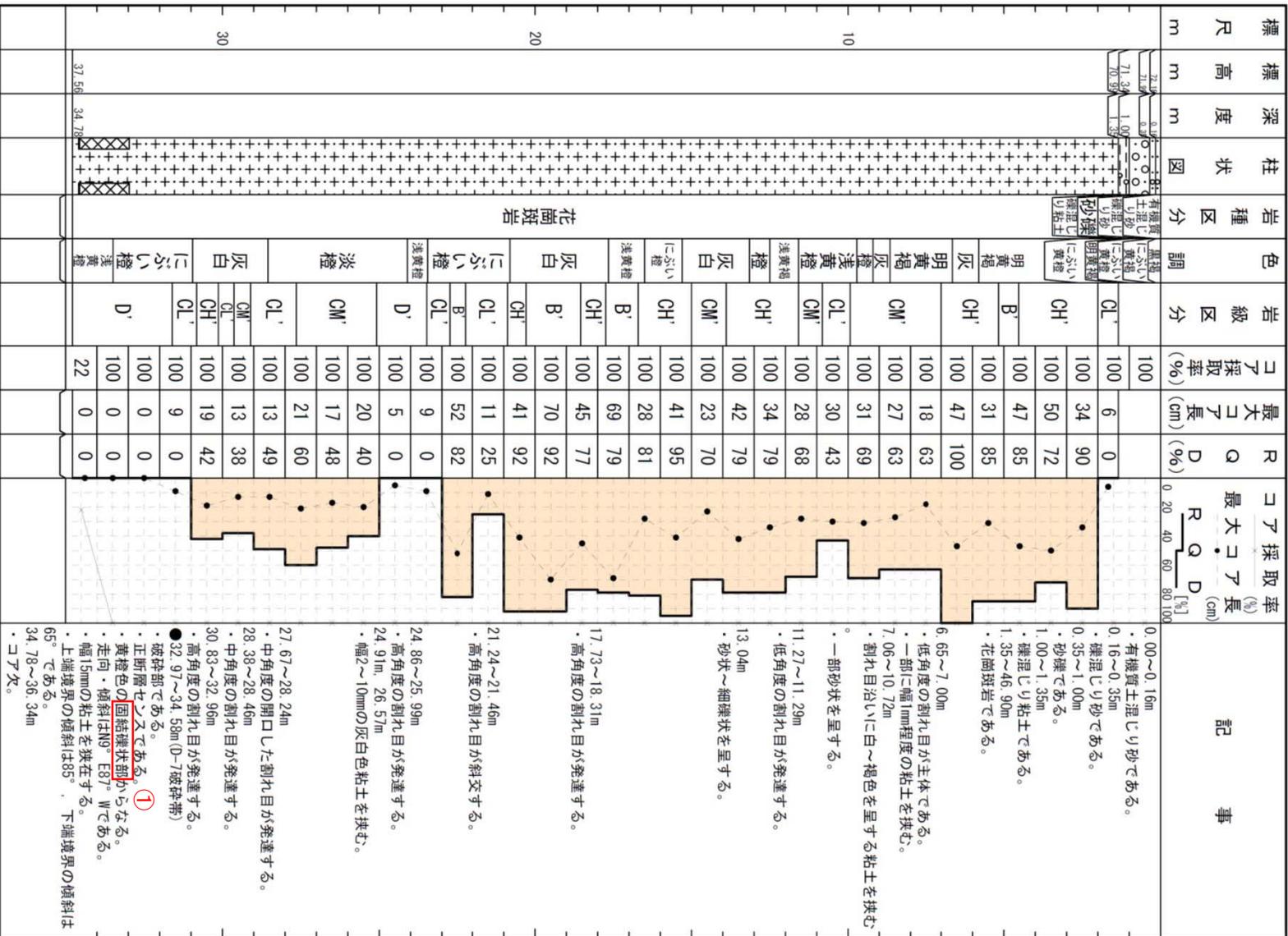
孔口標高

T.P. 72.34m

掘削長

100.00m

第657回審査会合
机上配付資料3 修正後



206(分類A)① 断層岩の区分について、細分化カタログから転記したが、転記を誤ったもの。

第657回審査会合
机上配付資料3 修正前

コア写真(18.00m～36.00m)



コア写真(18.00m~36.00m)

①

第657回審査会合
机上配付資料3 修正後

207(分類)①
深度18.00m~深度36.00mのコア写真を掲載すべきところ、誤って36.00m~54.00mのコア写真を掲載してしまつた。

柱状図(140.00m～175.00m)

第657回審査会合
机上配付資料3 修正前

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R D	Q D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R D	Q D	記 事
150	-123.31	150.50	花崗斑岩	アライト	明赤灰	CM'	100	8	0	0	0	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ●148.30～148.76m (D-39破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににふい黄色の固結礫状部からなる。 ・暗褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm
						CL'	100	19	31	0	0	0	0		
						CM'	100	24	43	0	0	0	0		
						CL'	100	15	38	0	0	0	0		
						D'	100	5	0	0	0	0	0		
						CL'	100	9	0	0	0	0	0		
						CM'	100	7	0	0	0	0	0		
						CL'	100	22	22	0	0	0	0		
						CM'	100	17	17	0	0	0	0		
						CL'	100	21	33	0	0	0	0		
						CL'	100	9	0	0	0	0	0		
						160	-137.61	166.90	花崗斑岩	アライト	灰褐色	CL'	100	25	
CM'	100	18	18	0	0							0	0		
CL'	100	34	56	0	0							0	0		
CM'	100	25	40	0	0							0	0		
CL'	100	13	23	0	0							0	0		
CM'	100	18	18	0	0							0	0		
CL'	100	15	15	0	0							0	0		
CL'	100	21	21	0	0							0	0		
CL'	100	11	11	0	0							0	0		
CL'	100	12	22	0	0							0	0		
CL'	100	5	0	0	0							0	0		
CL'	100	15	41	0	0							0	0		
170	-139.67	169.62	アライト	灰黄	灰黄	CL'	100	10	10	0	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 169.46～169.62m ・要質し、軟質化している。 ●169.62～169.63m ・破砕部である。 ・明黄灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.5cmである。 ・走向・傾斜はN20° E89° Wである。 ・上端境界の傾斜は73°である。 	
						CM'	100	7	0	0	0	0	0		
						CL'	100	14	14	0	0	0	0		
						CL'	100	9	0	0	0	0	0		
						CL'	100	9	0	0	0	0	0		
						CL'	100	14	14	0	0	0	0		
						CL'	100	9	0	0	0	0	0		
						CL'	100	14	14	0	0	0	0		
						CL'	100	9	0	0	0	0	0		
						CL'	100	9	0	0	0	0	0		
						CL'	100	9	0	0	0	0	0		
						-144.52	175.00		花崗斑岩	灰白	CM'	100	9		0
CL'	100	9	0	0	0						0	0			

余白

1. リスト

番号	頁	資料名	項目名	正誤の内容		分類	誤りの理由
				対象箇所	誤		
1	283	本編資料	-	擬似速度応答スペクトル	EW方向とUD方向のグラフの貼り付け場所の修正	A	貼り付け先への転記を誤った。

(直接的な記載の誤り)
 分類A：転記の誤り
 分類B：作図の誤り
 分類C：表記基準の周知不足

(二次的な記載の誤り)
 分類D：転記元の記載の誤り

(表現の適正化未反映)
 分類E：誤字・脱字・記載漏れ
 分類F：表現の不統一

余白

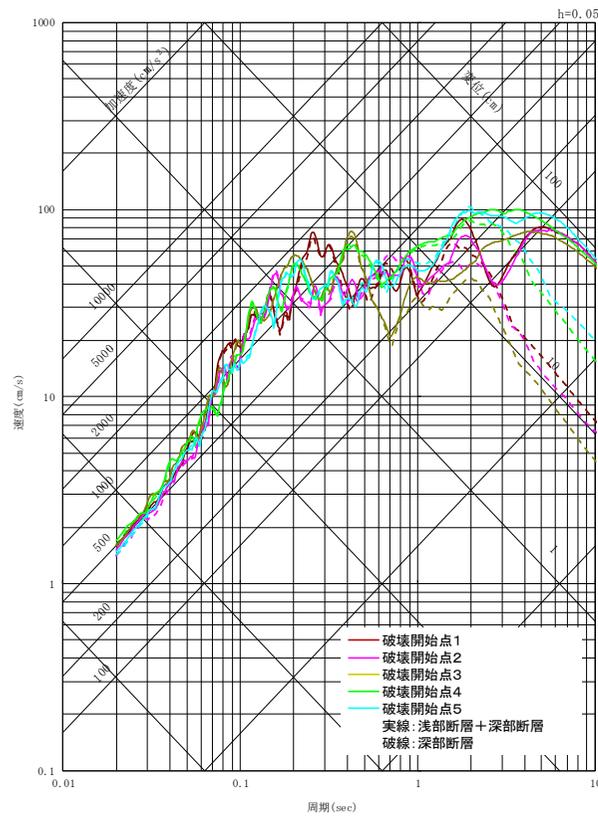
2. 個々の記載の不備の具体的内容・類型化

資料名		該当ページ(資料の右下)	正誤比較ページ (資料の右上)
平成31年4月26日 第711回 審査会合資料	本編資料	4. 浦底断層の地震動評価 107	282~283

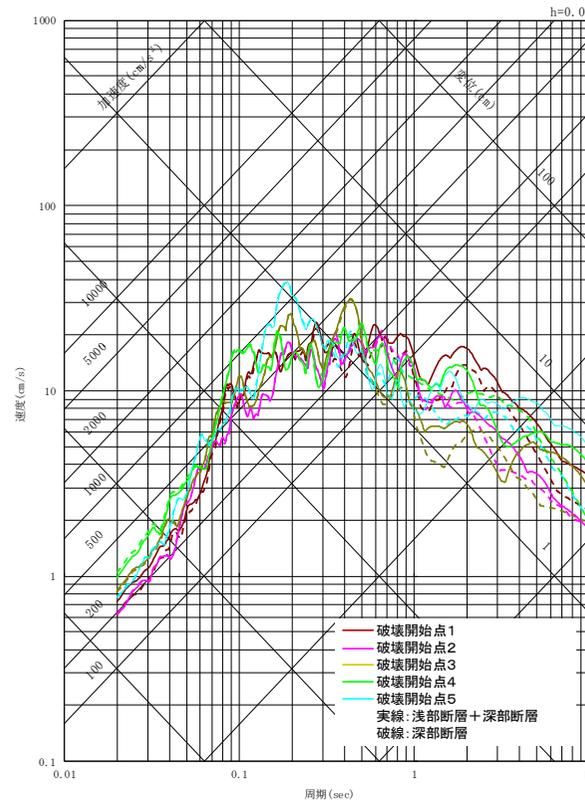
: 修正箇所

震源が敷地に近い場合の地震動評価結果(基本ケース)(1/4)

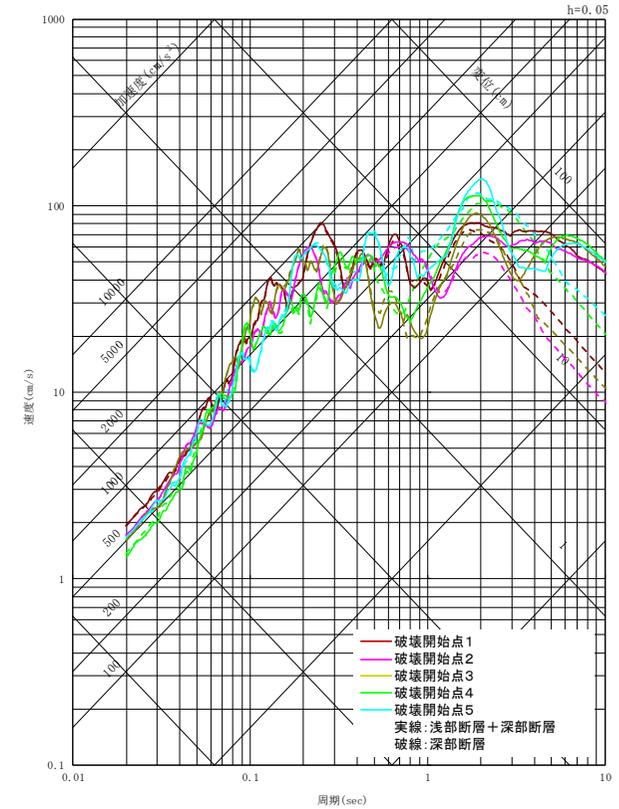
- 浦底断層の断層全体(浅部断層+深部断層)と震源断層(深部断層)のみの基本ケースの評価結果を比較して示す。
- 断層全体を考慮した効果は、長周期側(約0.5秒以上)に現れている。



NS方向



EW方向

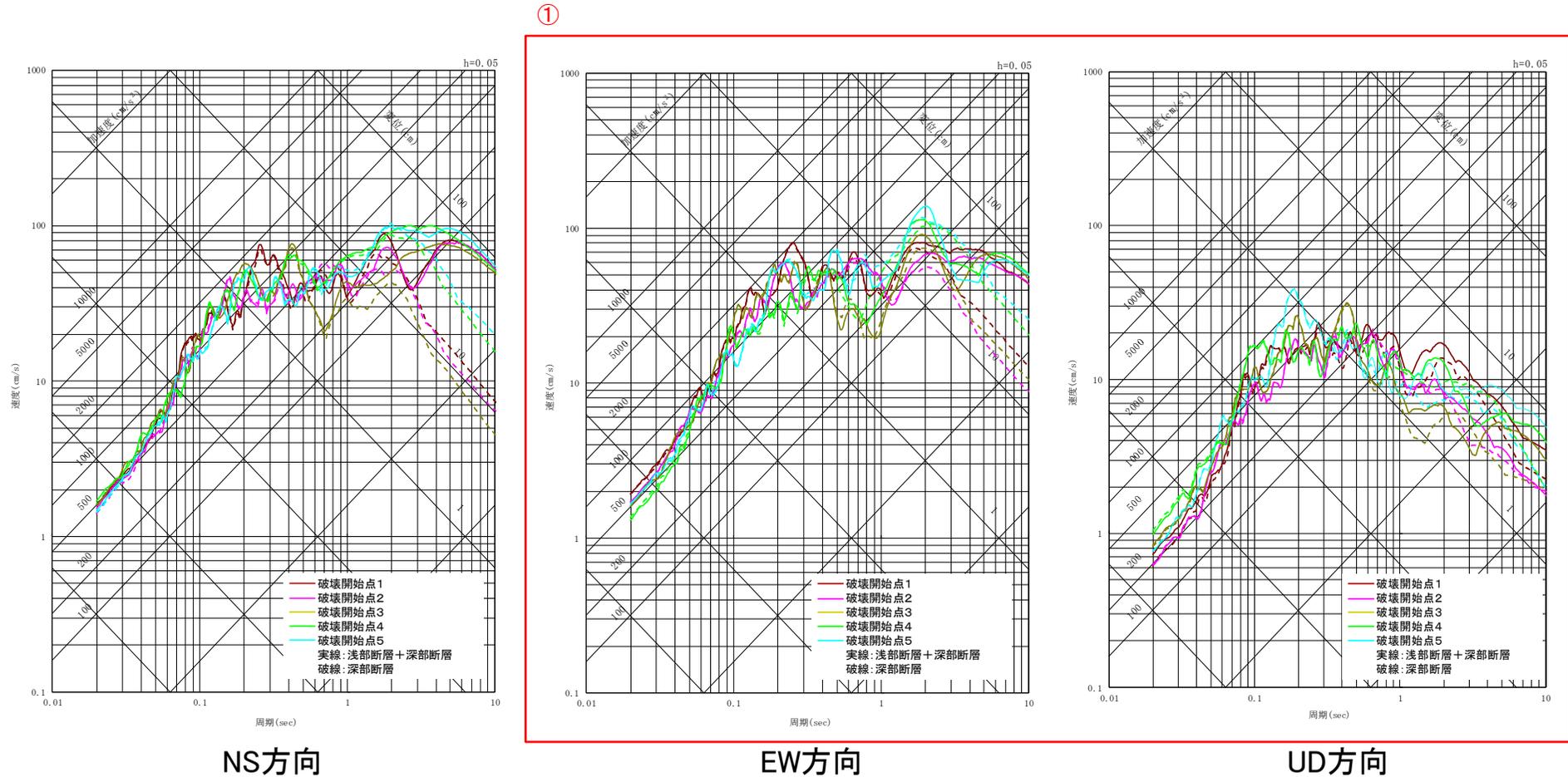


UD方向

擬似速度応答スペクトル

震源が敷地に近い場合の地震動評価結果(基本ケース)(1/4)

- 浦底断層の断層全体(浅部断層+深部断層)と震源断層(深部断層)のみの基本ケースの評価結果を比較して示す。
- 断層全体を考慮した効果は、長周期側(約0.5秒以上)に現れている。



擬似速度応答スペクトル

1(分類A)①
貼り付け先への転記を誤った。

余白